



## 在宅中心静脈栄養法(HPN)とは

中心静脈栄養 (TPN: Total Parenteral Nutrition) とは、中心静脈という心臓の近くの太い血管内に留置したカテーテルを介して高カロリー輸液を行う方法です。食事などで必要な栄養をとることができない場合に、栄養状態を維持・改善するために行います。

在宅で中心静脈栄養法 (HPN: Home Parenteral Nutrition) を行なうことで、長期入院から家庭・社会への復帰が可能となり、生活の質 (QOL) の向上につながります。また、小児においては成長・発達を促すことにつながります。

### 【輸液の方法】

お子様の状態にあった方法で高カロリー輸液を行います。

#### ①24時間持続投与

低血糖症状を起こす可能性が低く、携帯用輸液ポンプを使用するので自由な行動も可能です。

#### ②間歇投与 (夜間のみ輸液)

カテーテルロック中は行動の制限が少なくなります。

ただし、ロック時間中に経口摂取が十分できないと低血糖を起こす可能性があるため注意が必要です。

## 合併症と予防について

おうちで安全にHPNを行うために、以下の合併症について理解し、予防に努めていきましょう。

### 【合併症】

- \*カテーテル感染
- \*肝機能障害
- \*低血糖：輸液が確実に入らない事によるもの
- \*高血糖：輸液の入り過ぎによるもの
- \*血栓形成：カテーテルが留置されている事によるもの
- \*カテーテルトラブル：事故抜去、カテーテルの破損、閉塞等

### 【合併症予防】

- \*カテーテル感染予防 ⇒ カテーテルや輸液製剤を扱う時には清潔操作に注意しましょう  
カテーテル刺入部の消毒をきちんとしましょう ※消毒方法は別紙参照
- \*合併症の早期発見 ⇒ 定期的な血液検査等を受け、肝機能障害などの合併症を早期発見できるように心がけましょう
- \*適切なTPNの管理 ⇒ カテーテル・輸液チューブの管理、輸液ポンプの管理を適切に行いましょう

## 日々の管理のポイント

### ◆観察・確認ポイント

起床時・就寝時、外出前後、輸液製剤の交換時などに確認しましょう。

- 状態の観察：発熱の有無、機嫌がいいか、元気があるか
- 刺入部の確認：刺入部の発赤・出血・腫脹・疼痛・浸出液の有無、ドレッシング剤・テープの固定
- 輸液ルートの確認：輸液チューブの接続部のはずれ・破損・屈曲・閉塞の有無、体への巻きつきの有無
- 輸液ポンプの確認：作動・設定の確認、電池交換・充電、輸液残量の確認

### ◆ゴミ (医療廃棄物) の捨て方 ※別紙参照

## トラブル時の対応

### 状態の異常

- \*元気がない
- \*発熱・高熱が続く
- \*刺入部の異常 など

### カテーテルの異常

- \*抜けている
- \*閉塞している など



病院に連絡・受診

### 輸液チューブの異常

- \*破損している
- \*輸液バックからチューブが抜けた

輸液チューブ交換

### 輸液ポンプの異常

- \*電源が入らない
- \*ポンプ故障メッセージ表示
- \*充電しても電池が早く終わってしまう
- \*指示どおりの輸液量が入らない

業者に連絡

何かお困りのことがございましたら、かかりつけ医か当院外来にご相談下さい。